



デイジー教科書について

近年、小中学校の特別支援学級を中心に、発達障がいを持つ子どもたちの学習を、音声や色で補助する「マルチメディアデイジー教科書」、以下「デイジー教科書」と呼びますが、これを導入する動きが全国的に広がっています。我が会派では、このデイジー教科書の普及について今まで繰り返し訴えてきましたが、改めて、この「デイジー教科書」について質問します。



文部科学省は、「GIGA スクール構想の実現」として、全国の各学校における児童生徒が1人1台の端末を保有する環境の整備等を進め、本年4月から学校現場における本格的な活用が始まっています。10月末に発表された文部科学省「端末利活用状況等の実態調査」によると、学習者用端末が整備済みの自治体が96.2%、学習者用端末1台当たりの児童生徒数が昨年3月の6.6人から今年の7月には1.0人になるなど、GIGAスクール構想の1人1台端末が着実に実現する状況にあります。これにより、今後、学校における1人1台の端末を前提としたICT環境が一気に整備され、教育におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）が推進されることが大いに期待されます。

ところで、教育現場におけるDXの推進について、とくに特別支援教育におけるデジタル化を進めてほしいとの声をよくお聴きします。例えば、特別支援教育で使われている音楽の教科書について、発行部数は、通常の学級で使われる教科書に比べて極めて少ない現状にあるため、障がいに応じた指導ができていない実態が指摘されます。

障がいをもつ子どもに適應できる、実態に応じたデジタル教材が必要である

と考えます。特別支援教育におけるデジタル対応が推進されていけば、家庭でも予習、復習に活用でき、また、遠隔指導も可能となり、さらには共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育」の推進にも寄与できるものと考えます。

そして、特別支援教育におけるデジタル化においては、デイジー教科書を採用することが非常に大きな役割を担うものと思われまます。

デイジー教科書の「DAISY」とは、Digital Accessible Information System（デジタル・アクセシブル・インフォメーション）の略で、日本では「アクセシブルな情報システム」と訳されます。デイジー教科書は、通常の教科書と同じ内容をデジタル化したもので、タブレット端末等にダウンロードして使います。文章の音声を流しながらその箇所にも色で強調したり、文字の大きさや音声の流れる速さを調節したりできます。

発達障がいなどにより、通常の教科書では文章や図形を読解するのが困難な子どもたちの学習を助けることができ、実際に使用した子どもたちからは、「自信をもって、音読ができるようになった。」「一文字ずつ読むことが減った。」「単語のかたまりがわかるようになった。」「自ら教科書を開く意欲がでてきた。」「教科書の内容の理解がすすんだ。」等の喜びの声が上がっています。

デイジー教科書の導入には公益財団法人日本障がい者リハビリテーション協会に申請する必要があります。この日本障がい者リハビリテーション協会の発表によりますと、デイジー教科書の利用申請状況について、全国の教育委員会、学校図書館の申請で令和元年度が、3,973名だったのが、令和2年度では5,007名と、2割以上も増加しており、年々増加する傾向が顕著に見られます。ところが、全国の自治体別に見たときに、かなりバラつきがあります。

本県の状況を資料で確認すると、他県に比べあまり活用されていないように見受けられます。日本障がい者リハビリテーション協会の発表している資料に、令和3年度におけるデイジー教科書の一括提供を受けている教育委員会の一覧がありますが、その資料によると、全国の都道府県において、合計で201団体の教育委員会が一括提供を受けています。

その中で一番多い都道府県は長野県で26団体あるのに対して、本県では、3団体しか一括提供を受けておらず、福岡市、北九州市の両政令市を除くと太宰府市1市に留まっている状況であります。

また、令和2年度の都道府県別デイジー教科書の普及率を示す資料がありま

すが、これによると、福岡県は九州7県のうち6番目の普及率となっています。

デイジー教科書の導入に当たっては様々な課題もあるとは思いますが、すべての子どもたちが意欲をもって学習を進めていくためには、本県においても、ぜひとも、さらなる導入を進めていくべきであると考えます。

以上を踏まえて、教育長に質問します。

まず、本県におけるデイジー教科書の活用状況はどのようになっているのでしょうか。県内の特別支援学校、小中学校での、令和2年度における活用状況について、お尋ねします。

そして、本県における特別支援教育へのデイジー教科書の活用について、メリットと課題をどのように考えるのか、また、今後のさらなる普及に向けてどのように取り組んでいくのか、教育長の熱意ある力強いご答弁を求めます。

【吉田教育長の答弁】

デイジー教科書の活用状況と普及に向けた取り組みについて

昨年度、デイジー教科書を使用した児童生徒数については、小学校 353 人、中学校 41 人、特別支援学校 23 人で、合計 417 人となっています。

デイジー教科書については、発達障がい等により、通常の教科書では読むことが困難な児童生徒にとって、読むことの負担を軽減し、内容の理解に集中できることで、学習意欲を高める効果が期待できるものと考えています。

一方で、これまでは、デイジー教科書を使用するための児童生徒用のパソコン等が整備されていなかったため、全国的にも普及が進んでいないことが課題となっています。

県教育委員会としては、GIGA スクール構想により、1 人 1 台端末が整備されたことを踏まえ、改めて市町村教育委員会や学校に対して、デイジー教科書の周知を図るとともに、特別支援教育担当者等の研修会において、効果的な活用事例を紹介するなど、その普及と活用を促していきます。